



Quarterly 高千穂

Vol. 28 | 2010/7

Contents

| | |
|----|--|
| 3 | TAKACHIHO News オープンキャンパス2010 |
| 4 | TAKACHIHO Data Eye 平成21年度 決算の概要 |
| 6 | TAKACHIHO Report 就職活動体験記 |
| 8 | TAKACHIHO Information 定期試験の注意事項 |
| 9 | New Books & Review 書籍紹介 |
| 10 | TAKACHIHO Event Report 研究報告「日中対照言語学会第23回大会報告」 卒業生教員の会 教育実習 近況報告 |
| 12 | Seminar Information ゼミナール紹介 |
| 14 | Seminar Information ゼミ I の概要 |
| 15 | TAKACHIHO Report ゼミナール連合本部の活動 |
| 16 | TAKACHIHO Campus Life 学友会コーナー (体育祭、六月祭、高千穂祭、クリーンアップキャンペーン他) |
| 18 | TAKACHIHO Information 高千穂同窓会 平成22年度父母の会活動について 編集後記 |



表紙の写真

高千穂大学 硬式野球部 東京新大学野球連盟1部昇格!

硬式野球部は東京新大学野球連盟2部春季リーグ戦において優勝、1部最下位の杏林大学との入替戦に勝利し、わずか1季で1部復帰を果たしました。

【1部・2部入替戦結果】

6/5 高千穂大学(2部1位) ○ 8-2 ● 杏林大学(1部6位)
6/6 高千穂大学(2部1位) ● 2-3 ○ 杏林大学(1部6位)
6/7 高千穂大学(2部1位) ○ 2-0 ● 杏林大学(1部6位)(延長10回)

この3連戦、在学生や保護者の方々、教職員等、多くの方々が応援に詰めかけ、スタンドから声援を送りました。

皆様のあたたかい声援、ありがとうございました。
秋季リーグからも皆様の応援、よろしくお願いたします。

オープンキャンパス 2010

梅雨入り後間もない6月19日(土)に、2011年度入試に向けたオープンキャンパスがスタートしました。今年、7月11日(日)、8月8日(日)、8月22日(日)、9月11日(土)、10月17日(日)、12月4日(土)の全7回実施します。初回の6月19日は前年度を上回る参加者があり幸先の良いスタートとなりました。

本学のオープンキャンパスのプログラムは、高校生にとって理解が難しい商学・経営学・経済学の違いや、本学の特徴である「家族的な大学」やサポートシステムを含む「めんどろ見の良さ」を解りやすく解説する「大学・入試説明」、高校生のご父母に対して安心して入学できる大学であることを説明する「父母対象説明会」、各学部の「学び」を具体的な例をあげながら社会との関わりについて講義する「模擬授業」、さらに入試委員の先生方が対応する「個別相談」により、ひとりひとりの受験生にとって最適な入試制度や個別の疑問点に対してアドバイスします。この個別相談は受験生にたいへん好評で、本学に関することはもちろん、進学そのものに対する疑問点や悩みに至るまでアドバイスをします。他には、入学後の大学生活をより具体的にイメージできるよう在学生による大学説明、キャンパスツアー、学食体験、クラブ練習会等を実施しています。

今年のオープンキャンパスのトピックの一つに、2011年度新たに経営学部を設置される「経営法務コース」があります。現在の経営学部ビジネスコミュニケーションコースを発展的に解消し、現代社会の企業経営に求められるコンプライアンス・マインドの基礎について学ぶ新しいコースです。つまり、「ヒト・モノ・カネ・情報」という経営資源を効率的に管理、運営する



受付



大学・入試説明

ために必要な法律知識の基礎はどのようなものか—たとえば、正社員と派遣社員の雇用について留意すべき点は何か? 商標権や知的財産権とは何か? 等—について学びます。企業人の育成を目的とする本学経営学部の方向性や人間教育(倫理性・責任感等)を教育のベースにおく本学の理念に合致した「学び」です。

オープンキャンパスは大学案内などの活字だけでは伝えきれない本学の良さを、受験生に実際に感じていただくためのイベントです。上記の企画だけではなく、普段のクラブ活動の状況やキャンパス内の学生の様子が高校生にとっては最も印象に残るはず。また、一人ひとりの在学生在が、やがて後輩となるかもしれないオープンキャンパス参加者に、明るく、やさしく、倫理観のある行動で接すること、こうした状況を受験生に見ていただくことが真のオープンキャンパスではないかと考えます。



キャンパスツアー



個別相談

Open Campus

7/11(日) 8/8(日) 8/22(日)
9/11(土) 10/17(日) 12/4(土)

主な内容

- ★大学・入試説明
- ★模擬授業
- ★個別相談
- ★キャンパスツアー
- ★AO・推薦入試対策
- ★父母対象説明会
- ★学食体験
- など

平成21年度 決算の概要

経営状態

企業会計の損益計算書に相当する消費収支計算書(別表2)で、平成21年度と平成20年度を比較しながら、本学の経営状態を説明します。

収入のうち、学生生徒等納付金は、55,103千円増の2,427百万円となりました。平成19年度に新設した人間科学部の学生が3年生まで揃ったことや、学部学費の改定により増収となりました。

手数料は1,030千円増の44百万円となりました。主な手数料である入学検定料が、志願者の増により増加しました。

寄付金収入は、従来の父母の会からの寄付に加え高千穂育英基金に大口の寄付があり、1,430千円増の7百万円となりました。

補助金収入は、私立大学経常費補助金のうち特別補助金が、制度の大幅な変更もあり26,473千円減少し、一般補助はほぼ同額でした。留学生向けの補助金も減少し、補助金全体として28,256千円減の266百万円となりました。

資産運用収入は、利金が為替レート等に依存する債券の運用収入が低下し、33,220千円減の160百万円となりました。

資産売却差額は、期中に売却した有価証券の購入価額と売却額の差額として3百万円となりました。

本学の総合研究所が、杉並区のキャラクターである「なみすけ」の活用に関して受託研究を行い、10万円の事業収入がありました。

雑収入は、科学研究費補助金の間接経費1,631千円や幼稚園の百周年記念行事の祝金1,080千円等の収入もありましたが、退職金支出に応じて交付される退職金団体交付金が減少したこともあって、2,440千円減の111百万円となりました。

以上述べてきた収入の合計である帰属収入(企業会計の収益に相当)は、16,770千円減の3,018百万円となりました。

学校法人が教育・研究水準を維持・向上していくために必要な資金として帰属収入の中から組み入れた基本金の額は320,317千円減の84百万円でした。

幼稚園の園舎の改築資金の最終支払い分や、備品・図書等の取得額、将来の校地・校舎の取得に備えての計画的な特定資産への組入、奨学金の原資となる育英基金への組入れ等が主なものです。

帰属収入から基本金組入額を差し引いた消費収入は、

303,547千円増の2,934百万円でした。

支出のうち、人件費支出は、教職員数は変わりませんでした。年齢構成の変化や定期昇給の結果14,104千円増の1,472百万円となりました。

教育研究経費は、幼稚園舎改築の関連工事や新園舎完成に伴う減価償却額の増等により、43,437千円増の879百万円でした。

管理経費は、20年度とほぼ同額の213百万円となりました。

借入金等利息は、幼稚園舎新築と登戸総合グラウンド取得のための借入金の利息を計画通り支払ったものです。

新幼稚園舎完成にともなう旧幼稚園舎の解体撤去その他の処分により、資産処分差額が153百万円発生しました。

これらの支出の計である消費支出(企業会計の費用に相当)は、186,910千円増の2,722百万円でした。

消費収入から消費支出を差し引いた消費収支差額は、212百万円の収入超過(黒字)となりました。

{(帰属収入 - 消費支出) / 帰属収入}で表される帰属収支差額比率は、高いほど教育・研究の充実に振り向ける資金的余裕があり経営的に安定しているとされますが、20年度の全国の私大の平均が0.2%だったのに対し本学の21年度の同比率は9.8%となり、安定した経営状態であることを示しています。

財政状態

学園の財政状態を、貸借対照表(別表3)を基に説明していきます。

校地・校舎・機器備品・図書等の有形固定資産は、7,078百万円でした。幼稚園舎が完成し建物・構築物が618百万円増加しましたが、一方過年度に工事代金の一部として支払った建設仮勘定418百万円を振替えており、減価償却・旧園舎の解体撤去や機器備品の耐用年数経過による除却等の減少もあり結果として28,523千円の増加でした。

幼稚園舎取得のための特定資産は計画完成により取り崩し、将来の土地・建物の取得に備えた特定資産は計画通りに繰入れて、その他の固定資産は247百万円増の5,055百万円となりました。

現金・預金や有価証券等の流動資産は、ほぼ同額の5,593百万円でした。

負債は、幼稚園舎新築と登戸総合グラウンド購入のための

借入金の残高391百万円、22年度の納付金収入となる前受金が1,199百万円、退職金の支払に備えた退職給与引当金が651百万円等となっています。また、21年度から、リースにより資産の整備をした場合は、その資産を固定資産に計上するとともにリース料金の未払分は負債に計上することとなり、負債の総額は2,438百万円となりました。

基本金は、自己資金で取得した校地・校舎・機器備品・図書等の取得額である第1号基本金が10,853百万円、将来の校地・校舎取得等に備えた資金である第2号基本金が2,180百万円、育英基金の原資となる第3号基本金が654百万円、1ヶ月分の運転資金

資金収支計算書(別表1)

(単位:千円)

| 支出の部 | | | | 収入の部 | | | |
|-----------|-----------|-----------|-----------|------------|-------------|-------------|-----------|
| 科目 | 金額 | | | 科目 | 金額 | | |
| | 平成21年度 | 平成20年度 | 増減 | | 平成21年度 | 平成20年度 | 増減 |
| 人件費支出 | 1,474,167 | 1,461,001 | 13,166 | 学生生徒等納付金収入 | 2,427,309 | 2,372,206 | 55,103 |
| 教育研究経費支出 | 620,725 | 587,888 | 32,837 | 手数料収入 | 44,318 | 43,288 | 1,030 |
| 管理経費支出 | 188,470 | 195,932 | △ 7,462 | 寄付金収入 | 5,831 | 4,621 | 1,210 |
| 借入金等利息支出 | 5,260 | 4,951 | 309 | 補助金収入 | 266,049 | 294,305 | △ 28,256 |
| 借入金等返済支出 | 64,440 | 44,440 | 20,000 | 資産運用収入 | 159,753 | 192,973 | △ 33,220 |
| 施設関係支出 | 218,509 | 466,093 | △ 247,584 | 資産売却収入 | 1,492,106 | 2,020,295 | △ 528,189 |
| 設備関係支出 | 164,605 | 52,369 | 112,236 | 事業収入 | 100 | 0 | 100 |
| 資産運用支出 | 1,553,867 | 1,343,277 | 210,590 | 雑収入 | 110,954 | 113,394 | △ 2,440 |
| その他の支出 | 92,478 | 119,831 | △ 27,353 | 借入金等収入 | 0 | 100,000 | △ 100,000 |
| 資金支出調整勘定 | △ 137,705 | △ 90,220 | △ 47,485 | 前受金収入 | 1,199,169 | 1,198,529 | 640 |
| 次年度繰越支払資金 | 4,709,155 | 3,465,005 | 1,244,150 | その他の収入 | 1,071,234 | 351,420 | 719,814 |
| 支出の部合計 | 8,953,971 | 7,650,567 | 1,303,404 | 資金収入調整勘定 | △ 1,287,857 | △ 1,284,254 | △ 3,603 |
| | | | | 前年度繰越支払資金 | 3,465,005 | 2,243,790 | 1,221,215 |
| | | | | 収入の部合計 | 8,953,971 | 7,650,567 | 1,303,404 |

消費収支計算書(別表2)

(単位:千円)

| 消費支出の部 | | | | 消費収入の部 | | | |
|-------------|-----------|-----------|---------|----------|-----------|-----------|----------|
| 科目 | 金額 | | | 科目 | 金額 | | |
| | 平成21年度 | 平成20年度 | 増減 | | 平成21年度 | 平成20年度 | 増減 |
| 人件費 | 1,471,846 | 1,457,742 | 14,104 | 学生生徒等納付金 | 2,427,309 | 2,372,206 | 55,103 |
| 教育研究経費 | 878,637 | 835,200 | 43,437 | 手数料 | 44,318 | 43,288 | 1,030 |
| 管理経費 | 212,694 | 221,891 | △ 9,197 | 寄付金 | 6,510 | 5,080 | 1,430 |
| 借入金等利息 | 5,260 | 4,951 | 309 | 補助金 | 266,049 | 294,305 | △ 28,256 |
| 資産処分差額 | 153,124 | 14,585 | 138,539 | 資産運用収入 | 159,753 | 192,973 | △ 33,220 |
| 徴収不能額 | 0 | 282 | △ 282 | 資産売却差額 | 2,611 | 13,128 | △ 10,517 |
| 消費支出の部合計 | 2,721,561 | 2,534,651 | 186,910 | 事業収入 | 100 | 0 | 100 |
| 当年度消費収支差額 | 212,104 | 95,467 | 116,637 | 雑収入 | 110,954 | 113,394 | △ 2,440 |
| 翌年度繰越消費収支差額 | 1,405,929 | 1,193,825 | 212,104 | 帰属収入合計 | 3,017,604 | 3,034,374 | △ 16,770 |
| | | | | 基本金組入額 | △ 83,939 | △ 404,256 | 320,317 |
| | | | | 消費収入の部合計 | 2,933,665 | 2,630,118 | 303,547 |

貸借対照表(別表3)

(単位:千円)

| 資産の部 | | | | 負債・基本金・消費収支差額の部 | | | |
|------------|------------|------------|-------------|-----------------|------------|------------|----------|
| 科目 | 金額 | | | 科目 | 金額 | | |
| | 平成21年度 | 平成20年度 | 増減 | | 平成21年度 | 平成20年度 | 増減 |
| 固定資産 | 12,133,224 | 11,857,338 | 275,886 | 固定負債 | 1,016,857 | 1,044,327 | △ 27,470 |
| 有形固定資産 | 7,078,454 | 7,049,931 | 28,523 | 長期借入金 | 326,640 | 391,080 | △ 64,440 |
| 土地 | 1,155,093 | 1,155,093 | 0 | 退職給与引当金 | 650,926 | 653,247 | △ 2,321 |
| 建物 | 4,271,497 | 3,964,761 | 306,736 | その他 | 39,291 | 0 | 39,291 |
| 機器備品 | 279,620 | 206,851 | 72,769 | 流動負債 | 1,420,899 | 1,411,146 | 9,753 |
| 図書 | 1,256,818 | 1,226,861 | 29,957 | 短期借入金 | 64,440 | 64,440 | 0 |
| 建設仮勘定 | 0 | 417,947 | △ 417,947 | 前受金 | 1,199,169 | 1,198,529 | 640 |
| その他 | 115,426 | 78,418 | 37,008 | その他 | 157,290 | 148,177 | 9,113 |
| その他の固定資産 | 5,054,770 | 4,807,407 | 247,363 | 負債の部合計 | 2,437,756 | 2,455,473 | △ 17,717 |
| 施設充実引当特定資産 | 2,180,440 | 2,205,440 | △ 25,000 | 基本金 | 13,882,735 | 13,798,795 | 83,940 |
| 育英基金引当資産 | 653,635 | 631,562 | 22,073 | 第1号基本金 | 10,852,653 | 10,767,283 | 85,370 |
| 退職給与引当特定資産 | 655,780 | 655,780 | 0 | 第2号基本金 | 2,180,447 | 2,203,950 | △ 23,503 |
| その他 | 1,564,915 | 1,314,625 | 250,290 | 第3号基本金 | 653,635 | 631,562 | 22,073 |
| 流動資産 | 5,593,196 | 5,590,755 | 2,441 | 第4号基本金 | 196,000 | 196,000 | 0 |
| 現金預金 | 4,709,155 | 3,465,005 | 1,244,150 | 翌年度繰越消費収支差額 | 1,405,929 | 1,193,825 | 212,104 |
| 有価証券 | 775,754 | 2,013,445 | △ 1,237,691 | 合計 | 17,726,420 | 17,448,093 | 278,327 |
| その他 | 108,287 | 112,305 | △ 4,018 | | | | |
| 合計 | 17,726,420 | 17,448,093 | 278,327 | | | | |



商学部4年
佐野 陽

西武鉄道(株) 内定

「就職活動:自分自身を見つめなおす時間」

私が就職活動を真剣に考え始めたのは大学3年生、昨年8月に行ったキャリアセンター紹介による2週間のインターンシップです。就職活動支援行事に参加した際、インターンシップという実際の企業で仕事を行えるということを知り興味を持ったのがきっかけでした。

実際に8月17日～28日の2週間、石井税務会計事務所様にお世話になり、事務所の職員の方と巡回監査に同行させていただきました。訪問企業は18社、業種は様々で、毎日が初めて経験することばかりでインターンシップに参加しなければこのような経験は出来なかったと今でも思っております。会計業務をサービス業と捉え経営者の方々をお客様として、プロ意識を持って仕事に取り組んでいる姿を毎日間近で見させていただき、アルバイトしか経験していなかった私にとって『仕事をする』ということに対する考え方が間違っていたのだと気付かされました。挨拶や姿勢、身だしなみなどについては社会人になる上でもう一度勉強する必要があるのだと、このインターンシップを肌で感じて得られたものが沢山あり良かったです。インターンシップ先の皆様が本当に優しく、2週間があったという間に過ぎてしまいました。

私自身、このままの勢いで就職活動の波に乗ろうと意気込み、就職支援サイトの登録やセミナー・会社説明会に参加して行きました。しかし、昨今の世界的な経済不況で景気が芳しくない状況であるため、企業にとっても厳しい採用になると会社説明会の中でも話されており、その分早い段階から選考を進め、採用人数を減らしより良い人材を採るといった姿勢をいつも感じられます。セミナー・説明会の予約といったものは瞬時に満席になってしまうことは多々あり、私だけではなく全国の就活生が焦っているのだと気付かされる日々でした。

年が明けた頃から周りの友達との会話は就職活動の

話題や選考段階といったものでもちきりでした。この時期になるとまず書類選考や筆記試験といったものがほぼ全ての企業で行われており、説明会にさえ参加できないという悔しい思いも何回もしました。しかし、書き方のコツといったものや少しずつ勉強していたSPIの効果もあり、書類や筆記選考が通るようになり、次の段階である集団討論や面接といったものに進むことができました。

けれど、私のネックとなったのはこの集団討論や面接でした。3・4・5月とほぼ毎日のように討論・面接があるので私自身、数をこなせばいつかは受かるという甘い考えがあったのも確かです。その結果として、当たり前ですが届いた連絡は落ちたものばかりで、次の選考に進むことが全くできませんでした。その時思ったのです。『自分自身に嘘をつくのは止めよう』と。もう一度自己分析と企業研究をやり直し、インターンシップを振り返って、何をしたいのか、どうなりたいたのかを考え、面接ではありのままの私を出そうと決めました。

私は、鉄道会社の内々定をいただき入社後は経理職として働くことができるようになったのも、今まで学んできた知識が評価された結果であると就職活動を終えて素直に感じております。改めて、就職活動とは『自分自身を見つめなおす時間』だと思います。

最後にこの就職活動は私1人で頑張ったものではなく、多くの方々の応援や助言、励ましの言葉があったからこそだと本当に感謝しております。所属ゼミである西山准教授や、インターンシップからお世話になっておりましたキャリアセンターの方々からのアドバイスがあったからこそ、内々定がいただけたのだと思っております。面接等で落ちてしまい悩んでいた時、励ましてもらい相談にのってくれた友人にも「ありがとう」と伝えたいと思います。そして、影ながら支えてもらい、今まで育ててくれた両親に本当に感謝しています。卒業まで残り短い大学生活を有意義に過ごすと共に、社会人としての準備や経理職としての勉強を更に行い今後に結び付けていきたいと考えております。



経営学部4年
関本 大輝

全国共済農業協同組合
連合会新潟県本部 内定

「身の丈にあったことを自信をもってアピール」

『審査の結果、あなたを内々定とすることに決定しましたので、お知らせします』——第一志望である団体から内々定の通知を受け取ったのは5月17日のことでした。このときの感動は2ヶ月経った今でも鮮明に覚えております。早速、所属ゼミの竹内教授に報告するとともに

キャリアセンターに進路届を提出。キャリアセンターの方から拍手で迎えられ、握手を求められたときは、喜びを共にしていただいたことに感謝の気持ちで一杯になりました。

私は就職活動を本格的にスタートさせたのは、3年次の12月「ゼミ発表会」が終わってしばらくしてからでした。それまでは、学内の就職行事に参加して履歴書の書き方やディスカッションのやり方などの基本を身につけたり、ゼミの4年生から体験談を聞いて、少しずつ臨戦態勢を整えてきました。

まずはリクナビやマイナビなどの就職支援サイトに登録し、企業にエントリーすることから始めました。実は、当時の私は志望する業界が定まっていなかった。そのため、エントリーは、社名を聞いたことのある有名企業、大手企業を中心でした。また、漠然と美容やファッションに興味をもっていたことからその方面の会社にもエントリーして説明会に参加して行きました。

こうした活動と並行して、自己分析に取り組みました。私は、この自己分析が就職活動において最も重要であり、基本の中の基本であると感じていたからです。これを疎かにしてしまうと、履歴書やエントリーシートの作成がうまくいきませんし、面接試験の際に発言する内容も薄くなってしまいます。私はしっかりと時間をかけて自己分析に力を注ぎました。その方法は、一つの事柄について「なぜ?」「どうして?」を繰り返して深く掘り下げていって、内容を濃くしていくというものです。これによって、自分について頭の天辺から足の爪先まで、過去・現在・未来にわたって網羅しました。それまで気付かなかった自分を発見することもしばしばありました。

自己分析とともに欠かせないのが企業研究です。会社のホームページやパンフレットに載っていない情報

は、会社説明会の時に質問し、知らないことがないように心掛けていました。会社説明会に参加したときには、他大学の学生と積極的にコミュニケーションを図り、就職活動についての情報交換も意識して行いました。

3月、4月は面接試験のピークとなりました。新潟出身の私は、地元へのUターン就職も視野に入れて活動しておりましたので、東京で面接を受けたその日に新潟に帰り、そこで面接を受けて東京に”とんぼ返り”ということがしばしばあり、かなり体力を消耗しました。この経験から、もしUターンするかどうか悩んでいる方がいれば、早めに地元か東京か、どちらかに絞って活動することをお勧めします。

面接で特に注意したことは、カッコイイことを言うのではなく、分かりやすく、論理的に話すということでした。相手は面接のプロです。カッコイイことを言っても、どんどん突っ込まれて化けの皮が剥がされてしまうのがオチです。自分の身の丈に合ったことを、分かりやすく、自信をもって話すことが大切だと思いました。

こうして瞬く間に半年間が経過し、私は幸いにも第一志望のところから内々定をいただくことができました。この間を振り返ってみると、嬉しかったこと、悲しかったこと、辛かったこと、悔しかったこと…が走馬灯のように思い起こされ、それらが凝縮された半年間、長いようで短い半年間であったと思えます。これまでの人生で最も充実した半年間であったと思えます。

私が第一志望のところから内々定をいただけたのは、決して自分ひとりだけの力によるものではありません。特に、提出書類の添削・面接でのアドバイスから就職活動に関わる様々なことに手助けして下さったキャリアセンターの方には、本当に感謝しております。この場を借りてお礼を申し上げたいと思います。また、私の心の支えとなって下さったゼミの先生をはじめ、家族、友人、先輩の方々にも「ありがとうございました」と感謝の気持ちを伝えたいと思います。

実社会にいれば、さまざまな壁に突き当たることがあると思いますが、そのときこそ私は、内々定をいただいたときの感動を思い起こし、新たな気持ちで前進していこうと思います。また、残りの大学生活も就職活動のときと同様に、一生懸命に、有意義に、精一杯過ごしていきたいと思っております。